

<教育長だより 80 号 枇差岳朝日に映えて 令和 8 年 1 月 22 日>



## 利他之心

教育長 津野庄一郎

ネットや SNS 等を見ると  
暗いニュースばかりが目につくのは私だけでしょうか。誘導型のタイトルで読み手の関心を引き付け、発信者の世界に引き込む。そこに視聴率を上げて広告料を稼ぐ営利が見え隠れします。人は絶えずこうした情報にさらされ続けると、世の中に対して明るい未来を見いだしにくくなる。私はそんな気がしています。

今日、お昼に関川小学校のバス停近くの雪をスコップで一生懸命にかいでいる人を見かけました。誰だろうと近づき声を掛けると、学校管理士の高井さんでした。聞けば、ここを出入りする給食運搬車がスリップしないように除雪しているとのこと。仕事と言ってしまえばそれまでですが、人知れず黙々と作業する姿に頭の下がる思いでした。また、子どもが通学しやすいように、毎日家の前の雪を散らす近所の方もおいでです。今朝も登校時の見守りの方が校門前で子どもたちに言葉掛けをしてくださいます。もしかすると他でも普通にやられていることなのかもしれません、とても有り難いことだと思っています。

今から 40 年以上前、教員なりたての頃にお世話になったある先輩の言葉を思い出します。「足の裏、見えないけれども足の裏が無ければ人間は立っていられない。見えるところだけにとらわれるな。大切なものは見えにくく、気づきにくいものだ」と。

岩手県に嫁いだ剣道部の教え子から寒中見舞いが届きました。読めば「宮沢賢治の世界溢れる宿をつくりました！」とあります。そう言えば、賢治の「雨ニモマケズ」(詩)にも、こうした利他之心があつたと頑張り屋のその子の顔を思い浮かべています。

< 【写真】：女川方面に向かう下校バス（1月 22 日）>